

ハチに刺されたときの応急処置

気温が高くなると活動が活発になるハチ。毎年ハチに刺されて亡くなる人が全国で20人前後います。スズメバチの被害が最も多く、アシナガバチ、ミツバチなども注意が必要です。適切な初期対応で症状を緩和しましょう。

【症状】

- ①局所症状：ハチの毒そのものへの反応。腫れ、痛み。痛みは数時間から1日続く。
- ②全身症状：ハチの毒に対するアレルギー反応。**蕁麻疹、呼吸困難、吐き気、発熱、血圧低下**など。特に**スズメバチに多く、毒の量が多くて強い**。以前に刺されたことのある場合は要注意。アナフィラキシーショックを起こして死に至る危険性もあります。

【応急処置の方法】

① 速やかにその場から離れる。	ハチの毒液には仲間のハチを呼び寄せる成分があり、特にスズメバチやアシナガバチは何度も襲ってくる危険があります。刺された場所からすぐに数十メートル離れてください。
② 針が残っている場合は抜く	ハチの針の根元には毒囊（どくのう）というものがあり刺された後も毒を注入し続けます。針を抜く時に、針をつまむと逆に毒を注入してしまう危険があります。抜き方に注意して下さい。
③ 傷口を洗い毒を絞り出す。	ハチの毒は水に溶けやすいので水道水でよく洗い、周囲を爪でつまんで毒液を絞り出す。
④ 傷口に薬を塗り冷やす。	抗ヒスタミンを含むステロイド軟膏を塗る。抗ヒスタミン剤はかゆみを抑え、ステロイド軟膏は炎症やかゆみを抑える。濡れタオル等で冷やす。
⑤ 医療機関へ行く	局所症状のみなら皮膚科へ、全身症状の時はすぐに救急車を呼ぶ。

【針の抜き方】

毒囊（どくのう）を圧迫しないよう、ピンセットや毛抜きがあればそっと針の部分を持って抜く。手持ちの物がない場合は爪で針をはじくようにして抜くか、硬いカード状の物で横に払うようにすると安全に取りやすいです。



【アナフィラキシーショックとは】

薬物やアレルギーの原因物質が体内に入ってから**短時間で全身症状（呼吸困難、血圧低下、意識障害、など）があらわれショック状態になること**。アナフィラキシーショックが原因で心停止に至った例の心停止までの平均時間は薬物5分、ハチ毒15分、食物30分といわれています。

【ハチに刺されないための予防】

- ① 服装：黒、赤、青などの濃い色はハチを興奮させるのでなるべく**薄い色**を選ぶ。
- ② 臭い：ハチは臭いに刺激されるのでヘアスプレー、香水はつけない。体臭や汗の臭いにも反応するので清潔に保ちましょう。

◎詳しくはスタッフまでご相談ください。